



モンゴル国教育文化科学省 国際協力機構 (JICA)



「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト (フェーズ2)」

JICA - コーエイ総合研究所

指導法改善プロジェクト NEWSLETTER

2012年6月版 第4号

プロジェクト2年目の活動が完了

プロジェクト2年目の活動が完了

モデル区/県での主な活動は、2010年9月 (2010/2011年度の新学期) に始まりました。県内で指導法改善の拠点になることが期待され選定されたモデル校では、「モデル校チーム」が結成され、2010年11月にはプロフェッショナル・チームによる研修を受講しました。各校が手探りで授業研究を実施し、様々な困難に遭遇したのがプロジェクト最初の1年の活動であったと思います。そのような中でも、モンゴル教育文化科学省の「2010/2011年度の目標」にモンゴル全国の学校において授業研究の実施が推奨されるなど、授業研究を通じた指導法改善の意義が少しずつ浸透し始めた時期でした。

2011/2012年度はみなさんにとってどのような1年となったのでしょうか？ここでプロジェクトの1年を振り返ってみたいと思います。

- ・2011年9月直前 (8月29～30日) に、教員養成課程を有する国立・私立の大学教員を対象に授業研究の実践方法を紹介する研修を開催。
- ・9月4～22日には、JICAから調査団が訪れ、本プロジェクトの中間時点での妥当性を再検討するとともに、有効性、効率性の観点から目標達成見込みを確認するための「中間レビュー」を実施。
- ・9月中旬～10月中旬、各モデル校において第2回授業研究モニタリングを実施。
- ・9月26日～10月8日、モデル区/県の指導主事およびモデル校の学習マネージャー、教員の代表者を対象に

日本で研修を開催。

- ・11月上旬、「指導法を全国に展開するための地域別研修」を開催。
- ・2012年1～3月、モデル区/県における研修モニタリングおよび第3回授業研究モニタリングを実施。
- ・2012年3月より非モデル県を対象とした活動を開始
- ・5月、インドネシアにおける技術交換を実施。
- ・6月3～4日、各区/県における授業研究実施状況を確認するとともに、指導法改善のための地域のネットワークを構築することを目的としたセミナーを開催。

プロジェクト最終年次 (3年目) の活動に向けて

いよいよプロジェクト最終年次 (3年目) の活動が開始します。本プロジェクトの下記の成果や目標がどの程度達成されつつあるか、注意が必要です。

スーパーゴール	初等中等教育の生徒の学力が向上する。
上位目標	モデル県および他の県で子ども中心の指導法が実施される。
プロジェクト目標	新指導法を普及する体制が強化される。
成果1	全ての区/県の新指導法普及チームの新指導法普及能力が向上する。
成果2	モデル区/県において「授業研究」のモデル事例が開発される。
成果3	モデル区/県の新指導法実践の能力が向上する。
成果4	教員養成課程における新指導法の普及及び定着に向けた環境が改善される。

子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト (フェーズ2)

モンゴルでは2005年から初等・中等教育に新しい学習指導要領、2008年から国家教育プログラムが導入されました。これらの新しい学習指導要領と国家教育プログラムでは、子どもたちに自ら知識を構築していく力を育成することが求められています。この指導要領が全国の学校で実践されるためには、各教員が新しい指導法、すなわち子ども中心の指導法を身につけることが不可欠です。

モンゴル国教育文化科学省は、国際協力機構 (JICA) の協力を得て、2010年4月から「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト (フェーズ2)」を開始しました。

プロジェクトの目標は、フェーズ1 (2006～2009年) で作成した教員用指導書と現在、作成中の研修モジュール等を活用して研修を実施し、モンゴル全国に子ども中心の指導法を普及する制度を構築・強化することです。

モンゴル国立大学、教育大学、教育研究所、教育文化局及びフェーズ1の関係者で結成された「プロフェッショナル・チーム」、モデル区・県であるソングノハイルハン区、ボルガン県、ザブハン県と共にプロジェクトを実施しています。

目次：

プロジェクト2年目の活動が完了	1
子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト (フェーズ2)	1
非モデル県対象の活動を開始	2-3
モデル区/県内の非モデル校対象研修開催	3
板書とは？	3
今後の予定	4
プロジェクト・コーディネーターの紹介	4
JICAによる他国における指導法改善への取り組み	4

非モデル県対象の活動を開始

2011年9月に実施されたJICAによる中間レビューでは、プロジェクト目標達成のためには、非モデル区/県の人材育成により力を入れること、モデル県と非モデル県の連携を促進することが課題の一つとして認識されました。これを受けて、2012年3月より非モデル県を対象とした活動を開始しました。

アルハンガイ県を対象とした研修の開催

3月15～17日、プロフェッショナル・チームが、アルハンガイ県を対象に研修を開催しました。今回の研修は昨年11月の「指導法改善を全国に展開するための地域別研修」に交通事故に遭遇したため、モンゴルの21県のうち唯一参加できなかった同県のために開催されたものです。

研修では子ども中心の指導法、指導法改善を実現する方法としての授業研究について講義や演習が行われました。講師の指導を受けながら参加者同士が協力して授業の準備を行い、研修3日目には研究授業が開催されました。

数学グループでは、正方形を四等分するような三角形を作って、面積について考えるという演習が行われました。参加者は活動を通して、子どもたち自身が公式を見つけ出していくことの大切さ、楽しさを理解したようでした。化学グループでは、教育文化局局長、会場校の校長、学習マネージャーが中心となって授業者を支援し研究授業の準備を行いました。「監督や評価者という立場ではなく、指導法改善を行う一員として管理職も授業研究に積極的に関わることが重要だと気づいた」という声も聞かれました。

バヤン・ウルギー県を対象とした授業研究モニタリングの実施

プロジェクトのモデル県であるザブハン県のチームが、モンゴルの西端バヤン・ウルギー県を対象に、4月23～27日、授業研究モニタリングを行ってきました。モニタリングの目的について、メンバーは「私たちチームの目的は、いいか悪いかを調べるための調査を行うことではありません。授業研究が西部の県でいかに実施されているか、良い点や改善点は何か、今後、実施する研修では何に注意すべきかを知ることです」と説明していました。

バヤン・ウルギー県教育局長は、「私たちが心配している問題の一つは、近年の高校卒業生のセンター試験結果です。バヤン・ウルギー県はモンゴルの21県中21番でした。しかし、子どもの学習の質に注意して取り組んできた結果、徐々に向上しています。このプロジェクトが教員の指導法をより改善するとともに学習活動の質を上げ、今後は10番以内に入ることを期待しています」と語りました。

モニタリングチームはウルギー・ソムの第2学校、第3学校、ウラーンホス・ソム、ノゴーンヌール・ソムの高校でモニタリングを行い、お互いに有意義な活動ができました。

ダルハン県を対象とした授業研究モニタリングの実施

5月1～4日、ダルハン県の4つの学校でモニタリングを実施しました。本モニタリングには、プロジェクトの指導法普及専門家のほか、セレンゲ県の指導主事3名が参加しました。セレンゲ県はフェーズ1のモデル県として授業研究を通じた指導法改善の豊富な経験を有しています。今回のモニタリングを通じて、セレンゲ県の経験や教訓をダルハン県に伝えていくこと、両県の間には授業研究に関するネットワークを構築することも目的でした。

ダルハン県では、現在「1000人の教員の研修計画」が進行中で、「授業研究」はその一環として行われています。国立大学、教育大学からも協力を受けて取り組んでいるとのこと、教育局の指導法改善に対する熱意が感じられました。



アルハンガイ県を対象とした研修の様子
(上：算数グループ
中：物理グループ
下：人間と自然の研究授業)



モデル区/県内非モデル校対象研修の様子

JICAによる他国における 指導法改善の取り組み

JICAの基礎教育分野の協力は、主に、1. 教育機会の拡充（学校建設）、2. 教育の質の向上（教員研修）、3. 教育のマネジメント改善（学校運営、教育行政官の能力強化）の3分野で行われています。

モンゴルのプロジェクトは、教育の質の向上（教員研修）を目指したものです。教員は教育の質を決定づける重要な要素です。高い指導力のある教員の育成には教員研修が不可欠であると日本では考えられており、継続的かつ段階的な教員の成長を促すための仕組みづくりの協力を行っています。

モンゴル以外では、インドネシア、パキスタン、バングラデシュ、カンボジアにおいても授業研究を活用した教員の指導力向上に向けた協力が行われています。アジアにとどまらず、中米やアフリカにおいても、算数と理科を中心に教員の指導力向上のための仕組みづくりへの協力が行われています。

教員の養成・配置で精いっぱい、現職教員の成長にまで、資源を配分できない国もたくさんあるのでしょうか。教員が継続的に成長していくことの重要性を、日本の経験をもとにこれからも各国に伝えていきたいと思えます。



*本ニューズレターは、モンゴルの読者向けに作成したモンゴル語版を基にしたものです。

今後の予定

プロジェクトの今後の予定は下記のとおりです。

2012年6月： 日本での研修開催

2012年9～10月： モデル校における第4回授業研究モニタリング実施

2012年10月： JICAによる本プロジェクトの終了時評価受け入れ

2012年11月： 「指導法改善を全国に展開するための地域別研修」開催

2013年1～2月： モデル区/県における研修モニタリングおよび第5回授業研究モニタリング実施

2013年2月： プロジェクト終了セミナー開催

その他、研修モジュールの完成、教員養成大学を対象とした研修も計画中です。非モデル県を対象とした活動も継続して行っています。

プロジェクトの政策コーディネーターの挨拶

2012年の4月より本プロジェクトの政策コーディネータを務めております。

モンゴル国教育文化科学省及び国際協力機構が共同で実施している本プロジェクトでは、教員の指導法改善、すなわち初等・中等教育学校において子ども中心の指導法を実践することを目的としております。本プロジェクトがモンゴルにおける教育の質の改善、とりわけ子どもたちの学力向上に大きく貢献することは間違いありません。

従って、授業研究を実践すること、そして全国に普及するための制度作り、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

ジャムバルドルジ・エンフトブシン

JICAプロジェクトチーム連絡先



住所：
Room 119,
Government Building III
Ministry of Education, Culture and Science,
Baga toiruu-44,
Ulaanbaatar, Mongolia

プロジェクトのウェブサイトができました！

<http://hicheeliin-sudalgaa.mn/>

Tel/Fax : +976-11-322552
E-mail: jicacctm@gmail.com

ウェブサイト (JICA内)
<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/004/index.html>

授業研究の実践方法を学び、
学校同士、教員同士が経験交流
および共同活動を行うチャンスが
生まれました。

